
プラスオクテット！

珠姫愛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブラスオクテット！

【Nコード】

N0845T

【作者名】

珠姫愛

【あらすじ】

14歳の誕生日に、青山美伽は見知らぬ外国人から不思議なトラペットが贈られてきます。

その不思議な楽器で王国を救うことになったのですが……。

不思議な贈り物

私、青山可南美の誕生日（6月18日）にアントニー・フランソワという人から、トランペットが届いた。

私は、吹奏楽の盛んな学校で、トランペットをやっている。でも自分の楽器は持っていなかった。

でも、1つ引つかかる点があった。私はアントニー・フランソワなんていう人物は、名前も聞いたことが

なかったことだ。両親にも、心当たりはないようだった。

そんな夜、私の携帯に不思議なメールが届いた。それは次のような内容だった。

「お誕生日おめでとうございます。」

お誕生日のお祝いに、あなたに人の心を癒すことができる、トランペットを差し上げます。

ぜひ、お使いください。

アントニー・フランソワ」

アントニー・フランソワって一体何者なんだ？？

ヒーリンググトランペットを持って

アントニー・フランソワなる人物からメールが来てから、2日が経ったある日の夜のこと。

私が、PCで動画を見ている時に、ある男から電話がかかってきた。「美伽、なんかわかんないけど、外国の男の人からお電話よ。」と母が言ったから、

もしいや、と思っ行ってみると、やはり例の男だった。

「こんばんは。私、アントニー・フランソワと申します。」

・・・やっぱり・・・それにしてもなんでこんなに日本語が達者なんだろう。

「こんばんは。何の御用でしょうか。」

しかも、なんで私の個人情報全部把握してるんだろう？

この時点では、アントニー・フランソワという男は、「ただの不審な男」としか

私の目には映らなかった。

「我々が、差し上げたヒーリンググトランペット（癒しのトランペット）は、届きましたでしょうか？」

「はい。頂きました。でもなぜお会いしたこともないのに、私にトランペットを下さったんですか？」

「それはですね、我々のオクテット王国を、美伽様のトランペットで、お救い頂きたいからに

ございます。」

オクテット王国を救う？そんな国名聞いたこともなかったから、何のことかいまいちピンとこなかった。

でもトランペットで王国を救うなんて楽しそう。軽い気持ちでそう思ってしまった私は

こういつてしまった。

「オクテット王国を私がお救いするんですか？私は何をすればいい

んでしよう？」

「おお！お救いいただけますか！ありがとうございます。まず、なぜこんなことをお願いしたのかといいますと、我が国の王様のお身体が、悪い腫瘍の巣になつてしまつていて、その病気を治すには、心に響く素晴らしい音楽を奏でることのできる

中学生の金管楽器奏者8名の方のアンサンブルの演奏を王様に聞いていただかなければ

いけないと、王国の医師は申しております。

もし、王様が崩御されてしまうと、王国内が混乱してしまいますし、現在の王様、ウィンズ7世様はたいそう優しい方でいらっしゃいますので、

なにより国民が、悲しみます。

ですが、あと7名の方が、いらっしゃらないといけません。

演奏と、仲間探しをしていただきたいと思いますのです。」

へえ。そうなんだ。トランペット吹くの好きだし、そういうの手伝ってみようかな。

よし。

「分かりました。私にできることはお手伝いします。」

人助けっていいことだしね。

「おお！ありがとうございます。では早速オクテット王国へ向かいましょう。」

そんなこんなで、私はオクテット王国救出のためのトランペット奏者になつたのだった。

ウインズ12世に会いに

王国を救うことになった翌日、私はフランソワさんと、オクテット王国の王様、

ウインズ12世様に会いに行つた。

・オクテット城にて

「ウインズ王様、プラスオクテットのお1人目、青山美伽様をお連れいたしました。」

「おお、そうか。よくおいでくださりましたなあ。」

と言いながら大きなベットから起き上がったのは笑顔がよく似合う優しそうな老紳士だった。

ほんとに優しそうな王様だなあ、まずそう思った。

「お初にお目にかかります。青山美伽と申します。お会いできて光栄です。」

こういう偉い人に挨拶って慣れてないんだよねw

「フランソワからは、お聞きかな？」

「はい。王様のご病気の治療を、音楽でお手伝いさせていただく、ということをお聞きしています。」

私にできることでしたら、お手伝い差し上げます。何でもお申し付けください。」

「おお、心強いですなあ。ありがとうございます。では、プラスオクテットの残りの7名の方を、フランソワと一緒に集めていただいて、演奏していただきたいのです。」

どうやらこの「プラスオクテット」というのが、フランソワさんの言っていた、王様を救うための楽団の名前のようだ。

これから仲間を見つけてるんだ。

たのしみだなあ！頑張る！！

ウィンズ12世に会いに（後書き）

さあ、いよいよ次回は、美伽が新たな仲間を見つけに出発します。
お楽しみに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0845t/>

プラスオクテット！

2011年10月9日01時35分発行